

令和 元 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500015		
法人名	社会福祉法人 清浄会		
事業所名	グループホーム なびき		
所在地	福岡県宮若市下有木1507-1		
自己評価作成日	令和元年 11月 8日	評価結果確定日	令和元年12月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号
訪問調査日	令和元年 11月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設17周年を迎え、理念である「その人らしさを大切に 笑顔で寄り添う」を念頭に利用者様の笑顔を引き出せるよう支援している。新しく料理クラブを発足し、利用者様の誕生日にお好きなおやつを皆で作りに一緒に食しお祝いをし、おやつの中には畑で収穫したスイカやさつまいもを使用したり、他にも畑で採れた白菜や、家族に頂いた梅干しを漬け、食卓に並ぶ事もあり、生活リハビリを中心に役割をもっていただき、やりがいを見出だしたり、音楽クラブでは季節の歌や、手芸クラブでは縫い物や、色塗り、貼り絵や、風船バレーなど楽しんでいただいている。併設施設との合同の敬老会や、馴染みの場所へ花見や、お買い物に出かけたり、地域の行事に参加し、習字や、作品の展示など社会との関わりを持つ環境も支援している。又地域の病院との情報交換も行い連携を取っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎月の行事や各クラブの活動で、理念に謳った入居者のやる気や笑顔、その人らしさを引き出すケアに努めている。言葉が出ない、表情のない入居者は日めくりや挨拶当番など役割を支援し、笑顔で「いただきます」の声が出るようになり、家族から「人間らしい生活をさせてもらい、ありがたい。」と大変に喜ばれている。入居者の「外に出られるだけで嬉しい」との声に、外出の機会を提供するように努め、今年からこども園の園児達と交流予定で、格別の笑顔の機会が増えている。外出や行事に参加された家族が撮影されたビデオを家族交流会で上映し運営に関する意見をお願いしたり、複数の家族を含む適切な参加者で運営推進会議が開催され、行事や事故報告、ヒヤリハットの報告も継続し、行政や警察の方からの情報提供で活発な討議が行われている。実習生の受け入れや地域行事への参加を継続し、法人の委員会活動や研修の充実で職員の研鑽に勤め、更なる理念の具現化が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 1号館/グループホームなびき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしさを大切に笑顔で寄り添う」を理念に掲示し、意識しながら利用者様の笑顔を引き出せる様支援している。	毎月の行事や各クラブの活動で、理念に謳った入居者のやる気や笑顔、その人らしさを引き出すケアに努めている。外出時長年勤めていたゴルフ場を見て、「懐かしい。」と入居者が声を上げて喜ばれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の文化祭に展示物を出品し見学したり、どんと焼きでは地域の方が正月の飾り物を持って来たり、地域の清掃活動などにも参加している。地域の会社の研修や、学生の研修の受け入れなども行っている。	地域のなびきホールで行う展示会に入居者の書道等の出品が恒例となっている。会社の新人研修や高校生、専門学校の学生の実習を受け入れ、同法人に就職する学生もいる。又、今年からこども園の園児達と交流予定で、格別の笑顔の機会が増えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行っている認知症の勉強会への参加や、講習など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月毎に実施。利用者、家族、地域の方、包括、警察の方などに参加して頂き、行事、事故などの報告、対策、取組みなど説明し、意見、アイデアなど頂きながらサービスに活かしている。	複数の家族を含む適切な参加者の出席で奇数月に開催され、議事録が玄関に公表されている。会議では、行事や事故報告、ヒヤリハットの報告も継続し、行政や警察の方からの情報提供で活発な討議が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとしての参加や、近隣の医療、施設との連携をとり、協力を頂いている。	日頃から法人として、情報交換や協力、地域同業者協議会GHみやわかの研修等で連携している。地域包括支援センターの紹介で入居された方もあり、対応について相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会を中心に苑内外の研修に参加し、身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。玄関の施錠は防犯も含め夜間時のみの施錠となっており、日中はセンサーを使用している。	毎月、身体拘束適正化委員会を兼ねた法人のリスク委員会が開催され、内部研修で拘束の具体的な内容を理解している。家族の了解を得て、転倒防止のためセンサーや鈴を使用したり、外出傾向のある入居者と一緒に法人の無料コーヒーを飲みに出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苑内外の研修に参加や、ミーティングを行い虐待防止の徹底に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内外の研修に参加で学ぶ。家族が遠方の方などで、成年後見人制度を活用されている方もおられ、職員も理解を深めている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料を整備し、入居時や年1回の家族交流会でも説明している。成年後見制度を利用されていた方は退居されたが、毎月来訪される後見人と良好な関係がもてたことで、制度の理解が促進している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の参加や、家族会での意見交換を行ったり、玄関の意見箱を設けたりしている。面会時などでも意見や相談を受けている。	ホーム便りに担当職員がメッセージを記載して家族に送付し、日頃から意見や相談しやすいように職員から家族に声をかけている。外出や行事に参加された家族が撮影されたビデオを家族交流会で上映し、運営に関する意見をお願いしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどを行い、職員の意見や、提案を聞く機会を設け、反映している。	定期的なミーティングで気付きや意見を出し合い、内容を申し送りノートで全職員で共有しているが、ケアの対応が変化した際や各委員会の連絡事項もノートで共有している。特に事故や急変など重要事項はその日だけでなく、必要に応じて連日でも会議を行い、内容を全員で共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会の参加や、資格習得のアプローチや、フォローを行い、各自が向上心を持てるよう環境、条件を整備している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	法人で募集し、グループホームに配属されている。開設当初からの勤務している職員や結婚を機に退職し復職した職員もあり、育児や家庭環境により、パートや夜勤専従職員など、多様な働き方が可能である。資格取得を奨励し、中には看護師や社会福祉士などに進んだ職員もいる。職員はそれぞれの能力を生かして音楽、手芸などのクラブに関わっているが、新たに調理クラブができて誕生会のおやつ作りなどで活躍している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	接遇委員会を中心に、苑内外の研修をうけ、職員の人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	法人と合同の接遇委員会の主催で研修会が行われ、GHみやわかなどの外部研修会、講演会等に参加し、職員の人権意識の啓発に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながら知識や、技術を着けていくために、内外の研修を受ける機会を設けたり、働きながらトレーニングできる環境作りをしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GHみやわか勉強会や、研修に参加し情報交換しながら、サービスの質の向上させる取り組みをしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後では、頻回にコミュニケーションとり、本人様の不安や要望を聴き、安心して生活できるような関係づくりに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で入居者状況や家族の不安や思い、困っている事、要望をしっかり受け止め、安心して生活出来る様関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で入居状況や、家族の思いなどしっかりお聴きし、現在必要な支援や、必要であれば他のサービス利用に繋げるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らす者同士喜怒哀楽を共にし、お互いに癒されたり、励まし合い支え合う関係づくりに努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームから定期的に情報を伝え、話し合いながら、行事にも参加して頂き、共に利用者様を支える関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事は馴染みの場所へ外出したり、地域のホールでの催し物に出かける。又、併設施設でのカラオケや、歌謡クラブに参加し、馴染みの方に再会するなどの機会を支援している。	同法人のデイサービスの利用の度に入居されている伴侶に会いに来られたり、入居者の近隣の方が、「あの方が居るから」と次々入居を希望されている。季節ごとの地域行事に出かけたり、家族と馴染みの美容院に行かれる入居者もあり、馴染みの人や場との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の居室で対話を楽しむ環境作りや、居室に一人で過ごされる方は、一緒にレクリエーションなど参加して頂けるよう声掛けしたり、お手伝いなどして頂き活躍の場ができる環境作りをしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され、退居された方でも面会に行き、家族、利用者様との関係は続け、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いの把握を担当制にしているののでしっかりお聴きし、困難な場合は本人様本位で支援出来る様努めている。	センター方式でアセスメントシートを作成し、生活歴を把握しながら、食器拭きや洗濯物を畳む等の生活リハビリに取り組んでいる。入居時は発語なく無表情だった入居者が、笑顔で言葉が出るようになり、家族から「人間らしい生活をさせてもらい、ありがたい。」と大変に喜ばれている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れており、いままでの生活歴や、馴染みの暮らし方を本人様、家族の方からお聴きしこれまでの生活や、サービス利用の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1か月評価や、できる、できない、一日の過ごし方、心身状態の把握や、生活リハビリをして頂きながら現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がモニタリングや、アセスメントを行い、カンファの中で意見や、アイデアを反映し、現状に合った介護計画を作成している。	担当職員が1ヶ月ごとに実施したモニタリング結果をカンファレンスで話し合い、担当者会議で課題を検討し、介護計画の見直しに繋げている。言葉が出ない、表情のない入居者は介護計画に沿って、日めくりや挨拶当番など役割を支援し、笑顔になったり、「いただきます」の声が出るようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列に記録し、カンファなどケアの実践の結果や気づきなど共有しながら介護計画の見直しなどに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や、家族の希望に傾聴し、栄養管理や、個別マッサージ、などの個別ケアも受け入れている。訪問介護、病院受診、併設施設のOT、PTなどの助言も頂いている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問診療、病院、ボランティア、地域行事への参加、地域小学校、中学、高校、会社などの受け入れなど行い、本人様が楽しんで頂けるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院との連携や、家族の希望など適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診の同行は家族にお願いしているが、月に1度訪問診療を受診される入居者も多い。訪問診療を実施する病院と連携会議を開催し、情報を共有しながら適切な医療に繋げている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時の対応や、臨時の病院受診などの相談や、アドバイスを受たり、経過報告など行い適切な看護が受けれるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護添書を作成し、継続したケアが受けれるよう情報交換や、SW、地域連携室、訪問看護の方とも連携をとり、病院関係者との関係作りを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調に応じて、家族、Dr、職員と話し合いを設け、現状をお伝えし、事業所の出来る事を説明し、方針を共有し、地域医療とも連携し、支援している。	入居契約時に「医療連携に関わる指針」の中で看取りについて説明している。本人や家族の希望に添って、法人の看護師と相談しながら、ギリギリまでホームでの生活を支援している。体調変化に気づき、病院受診して緊急手術になった入居者は、家族と話し合い、納得のうえ退所された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内、外での緊急時の対応の研修の実施や、マニュアルを作成し、緊急時に備えている。又、緊急時の対応の訓練を消防署と連携し行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、水害などの日勤帯、夜間帯を想定し訓練している。消防署の協力を得、合同訓練も行っている。	消防署の協力で実施している法人の合同訓練に参加する他に、毎月ホームで夜勤帯の避難誘導訓練等を実施している。GHみやわかの救命救急講習の参加やホーム内での心肺蘇生法等の研修を実施し、風水害マニュアルの見直しや目印テープまで水位が上昇すれば、避難開始と決めて職員が慌てずに行動できるように、訓練を重ねている。	備品台帳の整備や入居者の持ち出し書類の検討をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コンプライアンスを意識し、利用者様のプライドを損ねないような対応を、接遇委員会を中心に実施している。	転倒や骨折に注意しながら、自由な行動を尊重し各クラブで、園芸や手芸、おやつ作り、日めくりや挨拶の担当など、各入居者が今、できることを見きわめ、できるように優しい言葉かけで支援している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者様が自己決定できる環境作りを行っている。手伝い、入浴、軽作業など本人様の希望も踏まえ支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、その方のペースに合わせた入浴や、食事の時間、レクレーションの参加などその方の意思の確認を行い、希望に沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の洋服、外出時の洋服、帽子などその人らしい服装を利用者様と一緒に選んだり、家族の方が、敬老会に着る洋服を持ってきて頂いたりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査など行い、メニューに反映したり、おやつはその方の誕生日に好きなおやつをリクエストして頂き、みんなで手作りし提供している。食器や、お盆拭き、おしぼり洗いなどもされている。	朝食は夜勤者が準備するが、昼、夕食はホームでご飯を炊き、同法人の厨房で用意された副食が届いている。ホームの畑で採れたトマトやキュウリ、スイカ、さつまいもなどの季節の野菜を味わっている。誕生月の入居者の好みのおやつを、皆で手作りしてお祝いしている。毎月、お楽しみメニューとして希望する麺類やカレーのが提供されたり、外食を楽しむ機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量などの摂取量を記録し、少ない方は、ゼリーや、プリンなど摂取して頂くなど工夫している。又、食事の形態もその方の状態によっては変更して支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人にあった口腔ケアの声掛け、見守りを行い、介助の必要な方は職員が仕上げ磨きを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、昼夜声掛け、誘導を行って、トイレで排泄出来る様にし、失敗を防ぎ、自立出来る様支援している。	時間やサインで誘導し、トイレでの排泄を支援している。昼間は、布パンツにパッドで対応できる方も4、5名おられる。日中は頻回にトイレに誘導している101歳の入居者は、夜間のみポータブルトイレを活用されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、食事、運動などの声掛けなどを行い、個人によっては、Dr. 看護師に相談し、便秘薬などで調整している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その方に合わせた入浴を行っている。外出などで変更したり、又便失禁などがあつたりしたらシャワー浴を行ったり、体調不良時は清拭、足浴、ドライシャンプーなど行っている。	週2~3回を目途に午前中から入浴を支援している。入居時は入浴を拒否され、家族が迎えに来られ自宅でシャワー浴をされていた方も、現在は入浴ができるまでになっている。同性の介助希望に応じたり、拒否される場合は時間を置いたり、「明日は診療です」と声かけに工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や、状況に合わせて安心して眠れるよう支援している。眠れない方は職員とコミュニケーションを取り、安心して休んで頂いている。又昼間に散歩や、日光浴など行う。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用など薬情報として理解している。薬の変更などは連絡帳に記入したり、情報はいつでも確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを中心に、役割を持ち、やりがいや張り合いが持てるよう支援している。カラオケ、手工芸、貼り絵、塗り絵、風船バレーなどされたり、外出行事や、散歩、苑に行きコーヒーを飲んだり気分転換などしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出る方は付き添って支援している。又家族の協力で、家に帰宅したり、パーマ屋さんに出かけたりされる。	桜等、季節の花見にはお弁当やおやつ持参で楽しんでいる。お正月の3社詣でや近所のなびきホールでの展示会の見学、大型ショッピングセンターでは家族と合流して外食を楽しんでいる。コスモス見学の際、「(花が少なくて)ごめんね」と職員が謝ったところ、「外に出られるだけで嬉しい」との入居者の返事に、外出の機会を提供するように努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時での買い物や、外食事などの支払いなどして頂けるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたい時は出来る様支援したり、年賀状や、暑中お見舞いなど書いている。又書けない人は職員が代筆し、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏季は天井に日よけカーテンをしたり、オーニングをし、空調調整をし、過ごし易くしている。洗面所や玄関には季節の花を活けたり、掲示板には季節を感じて頂ける掲示をしている。	左右対称に2つのユニットが並んでいるが、食事時以外はリビングの扉が解放されて広々とした環境になっている。天窓から陽光が心地良く差し込み、食堂や浴室、トイレの換気や空調に配慮している。各ユニットのリビングに3個つつテーブルが配置され、入居者は相性に配慮した席でゆっくり食事をしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士で、ゆっくり会話出来る様席を配慮したり、ソファで寛がれる方、新聞をじっくり読む方など思い思いに過ごせる様配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活習慣や能力に合わせて、安心、安全に過ごせる様、畳を敷く、手すりをつけるベッドを低くしたり、家で使用していた筆筒や、仏壇を置いたり、編み物をするための椅子を置いたりして過ごしやすいよう工夫している。	居室の入口に其々の担当職員が作ったかまぼこ板の名札が掛けてあり、横には入居者の書道や俳句の短冊が飾られている。畳を敷いたり、ベッドを低くするなど、入居者の状況に合わせた居室作りが行われ、家族の写真や自宅から持参したタンスなどの家具が置かれ、自分らしく寛いでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな日めくり、トイレと大きく表示したり、お盆やテーブルに名前を書いたり、歩行不安定な方は、手すりを持ち安心して歩行出来る様にしたり、部屋に印や、名前を大きく書いたりして支援している。		